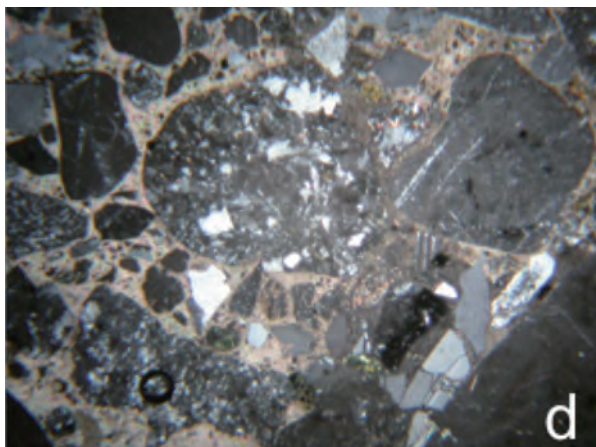
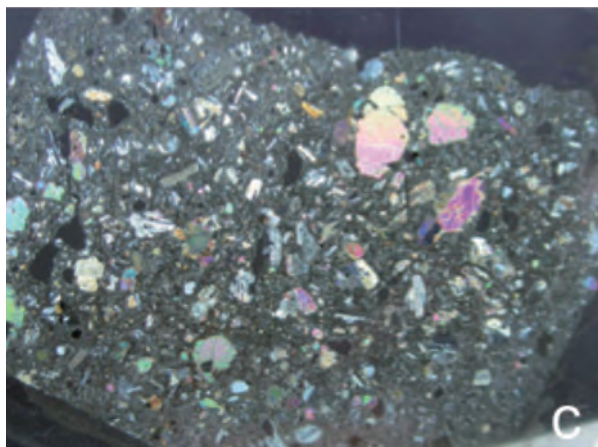
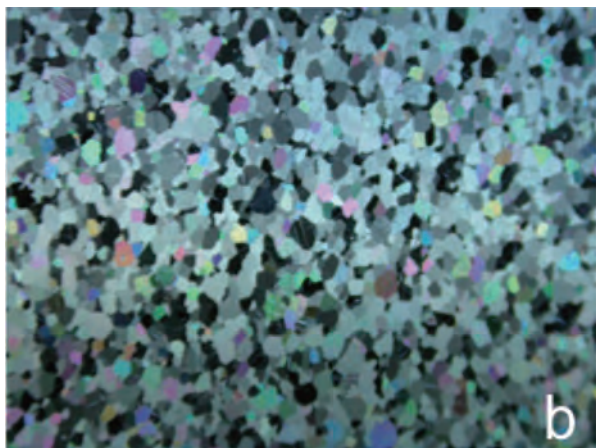
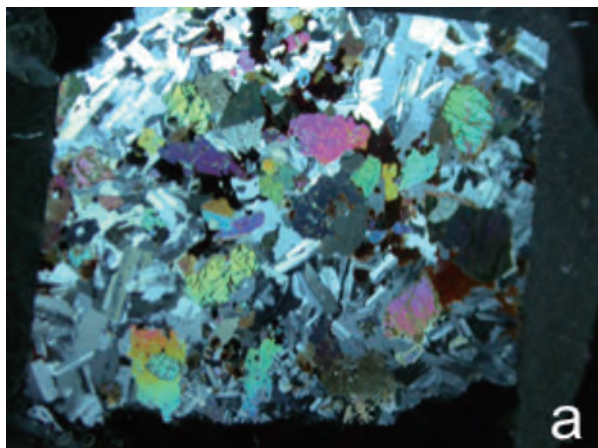


手製のクロスニコルを使った薄片観察実験

＜杉山了三¹⁾＞

偏光板2枚を組み合わせたクロスニコルは、岩石の薄片観察の実験授業にたいへん有効である。写真aは生徒が製作した火成岩の薄片である。写真bの結晶質石灰岩の薄片では、方解石の結晶が集まったモザイク組織を観察できる。写真cの雫石町産のかんらん石玄武岩の薄片写真では、大きいかんらん石が含まれていて、美しい干渉色を見ることができる。写真dは白亜系の礫岩であり、礫を方解石が埋めていることがわかり、堆積岩にとって重要な続成作用を学ぶ上で役立つ(本文参照)。



クロスニコルに入れた岩泉町産の紅柱石ホルンフェルス(写真e)。変成岩に含まれる紅柱石・らん晶石・けい線石の多形関係は重要であるが、教科書にも写真は無い。鉱物は肉眼でも観察できるほど大粒なこともあり、生徒がクロスニコルで簡単に観察できる。